

債券・為替 ウィークリーレポート



カナダ



ブラジル



メキシコ



オーストラリア



ニュージーランド



ノルウェー


















南アフリカ



インドネシア


















インド

国（地域）	格付 （※1）	債券（※2）	為替（対円）	経済成長率	政策金利	先週の動向	今週の見通し
		7/14 （7/7との比較）	7/14 （7/7との比較）	前年比 （※3）	先週末		
		今後の見通し （※4）	今後の見通し （※5）	景気方向性 （※6）	方向性 （※7）		
カナダ 	AAA	1.90% （+0.02）	89.01円 （+0.59%）	+2.3% 2017年1Q	0.75%	堅調な経済指標を背景に、市場予想通り中銀は利上げを実施。国債利回りは小幅上昇。利上げをうけて、カナダドルは対円で上昇。IEA（国際エネルギー機関）の石油見通しが好感され、原油価格は上昇。	CPIや小売売上高などの発表を予定。月末のGDP（国内総生産）や他国の金融政策動向、原油価格などが注目されるなか、米国のNAFTA（北米自由貿易協定）見直しの動向も注目。
	Aaa	 金利横ばい		 景気安定	 利上げ局面		
ブラジル 	BB	9.48% （▲0.28）	35.39円 （+1.93%）	-0.4% 2017年1Q	10.25%	労働法改正案の承認や政治リスクの後退が意識されたことから、リアルは対米ドル、対円ともに上昇。月末に通貨政策委員会を控え、追加利下げが見込まれることなどから、国債利回りは金利低下。	8月上旬に同国大統領の起訴の是非についての採決を控えるも、議会が休会となるため材料の乏しい展開を見込む。同国の政治リスクへの警戒感を引き続き強く、金融市場は神経質な展開を想定。
	Ba2	 金利低下		 景気回復	 利下げ局面		
メキシコ 	A	6.65% （▲0.04）	6.40円 （+1.64%）	+2.8% 2017年1Q	7.00%	イエレンFRB（米連邦準備制度理事会）議長のハト派的な発言が下押し圧力となる中、国債利回りは低下。経済指標から経済の底堅さがうかがえたことなどが上昇要因となり、ペソは対米ドル、対円ともに上昇。	失業率の発表などを予定。米国がNAFTA（北米自由貿易協定）での協議目標を公表し、貿易赤字削減を強調。NAFTA再交渉や、中銀の金融政策の動向をにらみつつ、債券・為替市場ともに神経質な展開を予想。
	A3	 金利横ばい		 景気安定	 利下げ局面		

（出所：ブルームバーグのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成）

- ※1 格付は上段がS&P、下段がMoody'sによる本国通貨建て長期債格付を表示。
- ※2 国債利回りを表示（カナダ：10年、ブラジル：4年、メキシコ：5年）。債券については変化幅、為替については騰落率を表示。
- ※3 経済成長率については、前年同期比を表示。
- ※4、5 今後の見通しについては、今後1カ月のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。為替の見通しについては、現地通貨高（円安）を上向き、現地通貨安（円高）を下向き、横ばいを横方向の矢印で表示。
- ※6、7 方向性については、今後1年のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。
- ※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。
- ※政策金利については、カナダ：翌日物貸出金利、ブラジル：Selicレート、メキシコ：翌日物金利を表示。
















※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。
※巻末のご注意事項を必ずお読み下さい。

国（地域）	格付 （※1）	債券（※2）	為替（対円）	経済成長率	政策金利	先週の動向	今週の見通し
		7/14 （7/7との比較）	7/14 （7/7との比較）	前年比 （※3）	先週末		
		今後の見通し （※4）	今後の見通し （※5）	景気の方向性 （※6）	方向性 （※7）		
オーストラリア 	AAA	2.72% （▲0.01）	88.11円 （+1.69%）	+1.7% 2017年1Q	1.50%	企業景況感、企業信頼感および住宅ローンは市場予想を上回る結果。国債利回りは小幅低下。中国の貿易収支が好感され、オーストラリアドルは対円で上昇。	中銀の政策会合議事要旨や雇用統計およびCPIが公表予定。また、中国のGDP（国内総生産）が堅調さを示すと、オーストラリアドルが一段と上昇する可能性もあるとみられる。
	Aaa	 金利横ばい		 景気安定	 据え置き局面		
ニュージーランド 	AA+	2.97% （▲0.05）	82.67円 （▲0.33%）	+2.5% 2017年1Q	1.75%	住宅売上高の前年比はマイナス幅が拡大。消費者信頼感指数なども前月から低下。一連の経済指標を受けて市場参加者が慎重化し、ニュージーランドドルは対円で下落。国債利回りは低下。	4-6月期のインフレ率の発表を予定。インフレ率が市場予想を下回る場合、利上げ時期が遠く可能性が高く、通貨安要因に。その他、サービス業指数の発表や隔週実施される乳製品入札が予定。
	Aaa	 金利横ばい		 景気安定	 据え置き局面		
ノルウェー 	AAA	1.68% （▲0.01）	13.74円 （+0.98%）	+2.6% 2017年1Q	0.50%	貿易収支は原油などの輸出額の減少を主因に赤字に転落。住宅価格は3年半ぶりのマイナス。インフレ率が市場予想を上回ったことや原油価格の反発を受けノルウェークローネは対円で上昇。国債利回りは小幅低下。	景気回復局面は持続すると想定されるが、景気拡大が本格化するには時間がかかるため、金融政策は当面現状のまま据え置かれる公算。同国では特段イベントはなく、市場は原油価格動向に左右される見込み。
	Aaa	 金利横ばい		 景気安定	 据え置き局面		

（出所：ブルームバーグのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成）

- ※1 格付は上段がS&P、下段がMoody'sによる自国通貨建て長期債格付を表示。
- ※2 10年国債利回りを表示。債券については変化幅、為替については騰落率を表示。
- ※3 経済成長率については、前年同期比を表示。
- ※4、5 今後の見通しについては、今後1カ月のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。為替の見通しについては、現地通貨高（円安）を上向き、現地通貨安（円高）を下向き、横ばいを横方向の矢印で表示。
- ※6、7 方向性については、今後1年のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。
- ※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。
- ※政策金利については、オーストラリア：キャッシュレート、ニュージーランド：オフィシャル・キャッシュレート、ノルウェー：デポジットレートを表示。

※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。
※巻末のご注意事項を必ずお読み下さい。

国（地域）	格付 （※1）	債券（※2）	為替（対円）	経済成長率	政策金利	先週の動向	今週の見通し
		7/14 (7/7との比較)	7/14 (7/7との比較)	前年比 (※3)	先週末		
		今後の見通し (※4)	今後の見通し (※5)	景気の方向性 (※6)	方向性 (※7)		
南アフリカ 	BBB-	7.69% (▲0.22)	8.62円 (+1.40%)	+1.0% 2017年1Q	7.00%	製造業生産は前年比でマイナス成長、消費者信頼感指数はマイナスに留まる。政府による景気刺激策の発表や海外市場の影響などを受けて、国債利回りは低下。ランドは対米ドル、対円ともに上昇。	金融政策決定会合などを予定。当会合で政策金利は据え置きの見通し。景気刺激策は財政規律を強化するが、労働組合との衝突は不可避。政治的な不透明感から債券・為替市場ともに不安定な展開を予想。
	Baa3	 金利上昇		 景気鈍化	 据え置き局面		
インドネシア 	BBB-	6.82% (▲0.16)	0.85円 (▲0.47%)	+5.0% 2017年1Q	4.75%	求人さえない結果を背景に消費者信頼感指数は前月から低下。11日に実施された国債入札で投資家の需要が強かったことを受け、国債利回りは低下。市場の円高傾向を受けて、ルピアは対円で下落。	貿易統計の発表などに加え、20日に金融政策決定会合を予定。インフレ率が中銀の目標範囲内で推移する中、政策金利は据え置かれる見込み。債券・為替市場ともにおおむね横ばいの動きを予想。
	Baa3	 金利横ばい		 景気安定	 据え置き局面		
インド 	BBB-	6.57% (▲0.09)	1.76円 (▲0.23%)	+6.1% 2017年1Q	6.25%	鉱工業生産は下振れ、インフレ統計は鈍化基調が継続。政策金利の引き下げ期待や主要国債利回りの低下を受けて、国債利回りは低下。ルピーは対米ドルで上昇、対円では下落。	主な経済指標の発表はなし。モンスーン国会の開会や大統領選挙などが控えるが、いずれも大きな混乱はないとの見通し。債券・為替相場はともに海外市場の影響に左右される展開を予想。
	Baa3	 金利横ばい		 景気回復	 利下げ局面		

（出所：ブルームバーグのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成）

※1 格付は上段がS&P、下段がMoody'sによる本国通貨建て長期債格付を表示。

※2 国債利回りを表示（南アフリカ：5年、インドネシア：5年、インド：5年）。債券については変化幅、為替については騰落率を表示。

※3 経済成長率については、前年同期比を表示。

※4、5 今後の見通しについては、今後1カ月のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。為替の見通しについては、現地通貨高（円安）を上向き、現地通貨安（円高）を下向き、横ばいを横方向の矢印で表示。

※6、7 方向性については、今後1年のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。

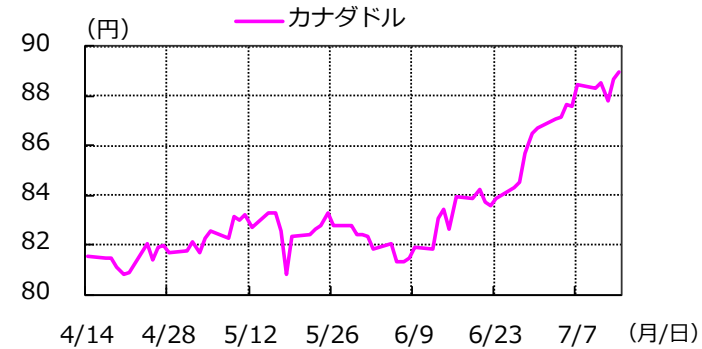
※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。インドネシアルピアは100通貨単位あたりの値。

※政策金利については、南アフリカ：レポレート、インドネシア：7日物リバースレポ金利、インド：レポレートを表示。

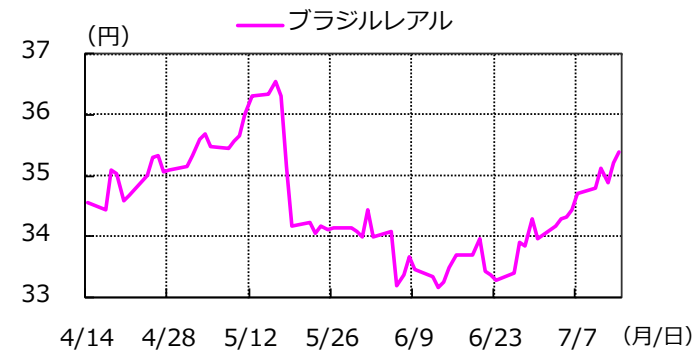
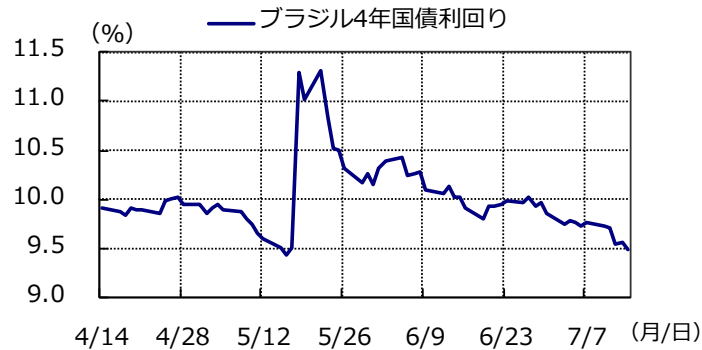
※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。
※巻末のご注意事項を必ずお読み下さい。

期間：2017/4/14～2017/7/14

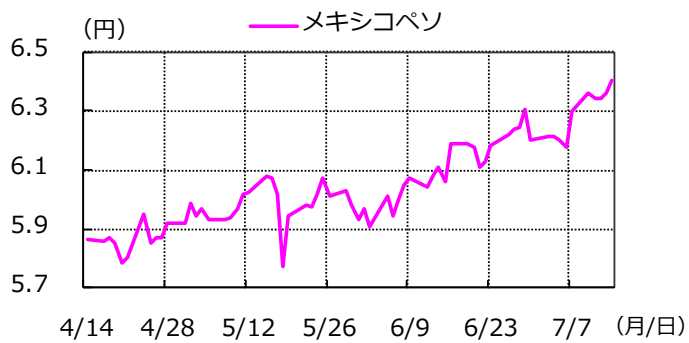
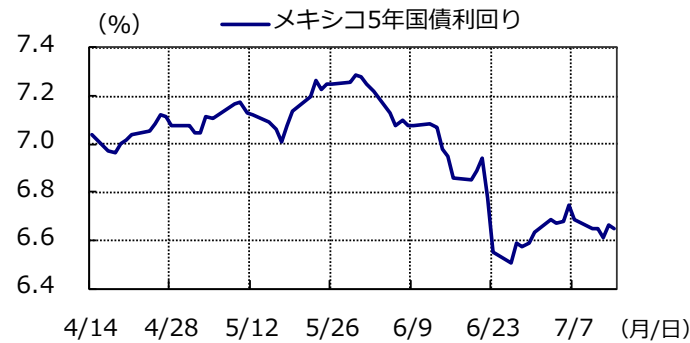
カナダ



ブラジル



メキシコ

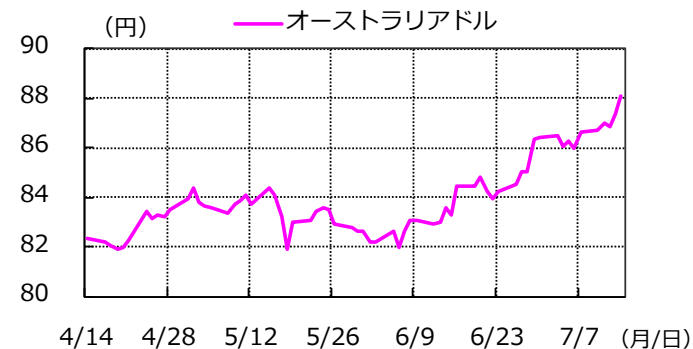
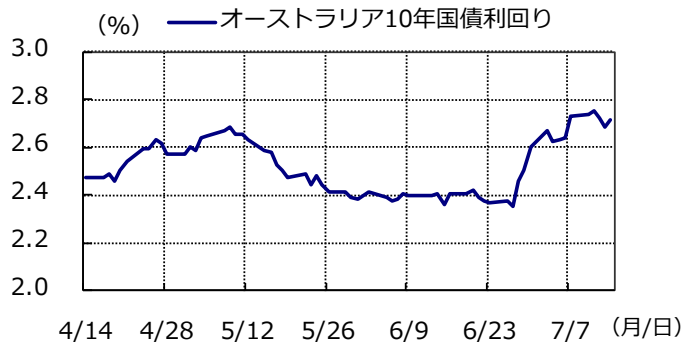


※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。（出所：ブルームバーグのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成）

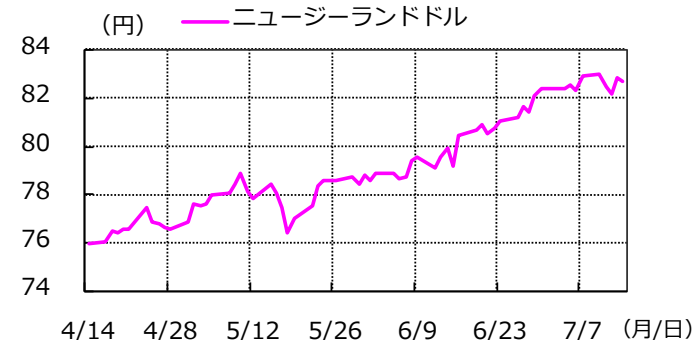
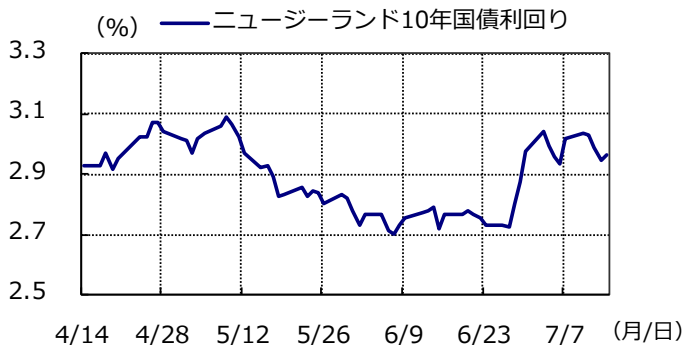
※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。
※巻末のご注意事項を必ずお読み下さい。

期間：2017/4/14～2017/7/14

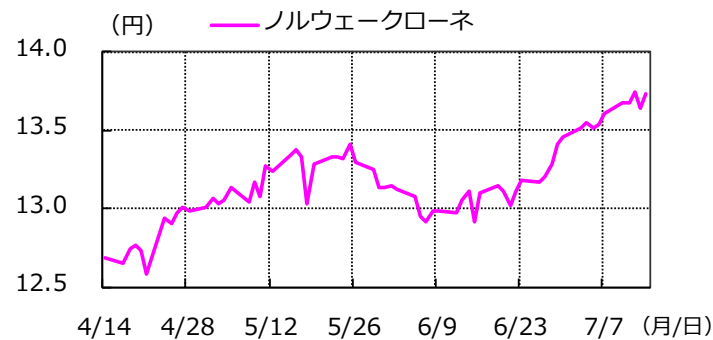
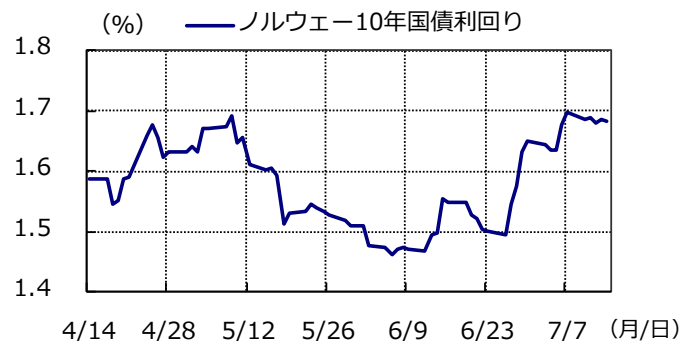
オーストラリア



ニュージーランド



ノルウェー

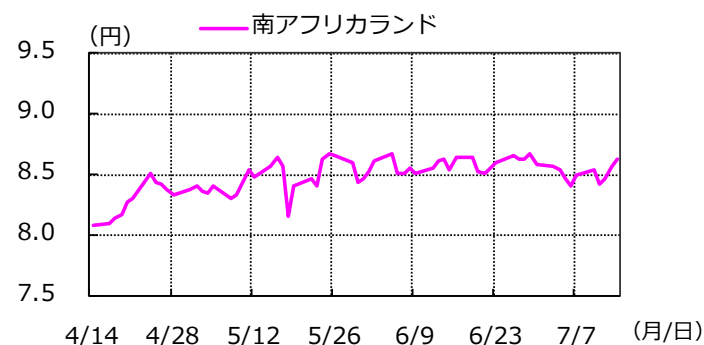
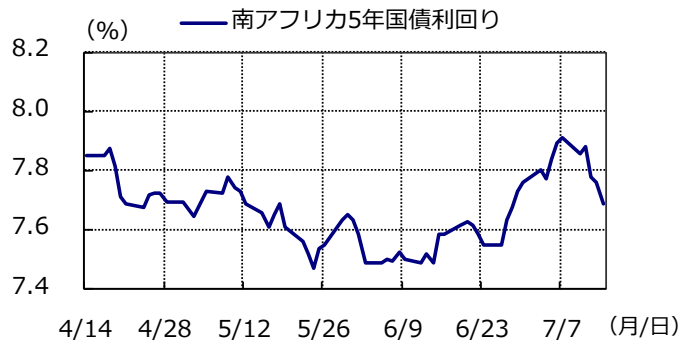


※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。(出所：ブルームバーグのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成)

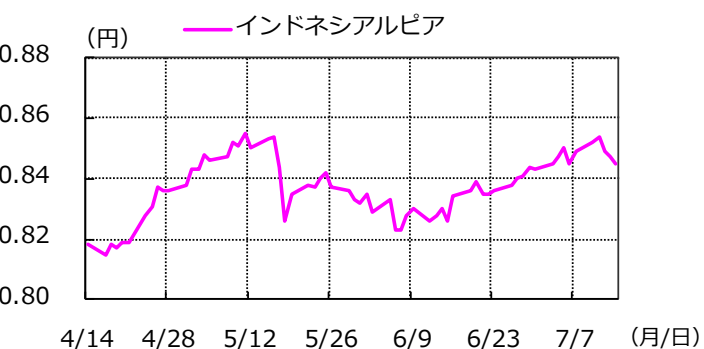
※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。
※巻末のご注意事項を必ずお読み下さい。

期間：2017/4/14～2017/7/14

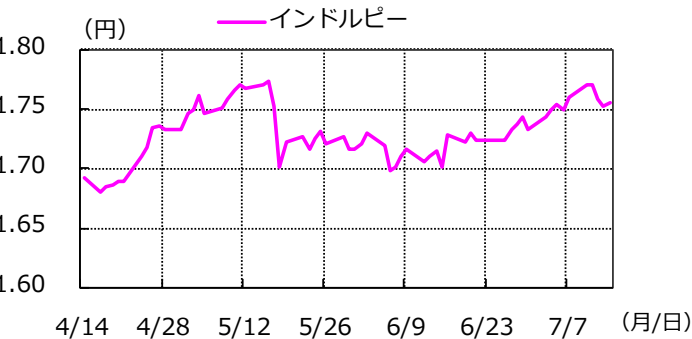
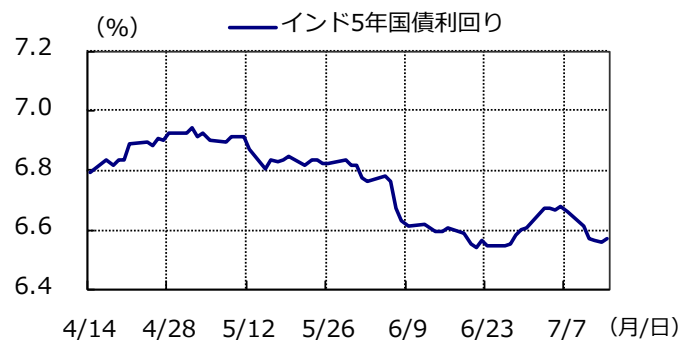
南アフリカ



インドネシア



インド



※インドネシアルピアは100通貨単位あたりの値。 ※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。（出所：ブルームバーグのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成）

※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。
※巻末のご注意事項を必ずお読み下さい。

投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項

【投資信託に係るリスクと費用】

● 投資信託に係るリスクについて

投資信託は、株式、債券および不動産投資信託証券（リート）などの値動きのある有価証券等（外貨建資産には為替リスクもあります。）に投資をしますので、市場環境、組入有価証券の発行者に係る信用状況等の変化により基準価額は変動します。このため、投資者の皆さまの投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。ファンドの運用による損益はすべて投資者の皆さまに帰属します。また、投資信託は預貯金とは異なります。

● 投資信託に係る費用について

[ご投資いただくお客さまには以下の費用をご負担いただきます。]

■ お客さまが直接的に負担する費用

購入時手数料：上限3.78%（税込）

換金時手数料：換金の価額の水準等により変動する場合がありますため、あらかじめ上限の料率等を示すことができません。

信託財産留保額：上限0.5%

■ お客さまが信託財産で間接的に負担する費用

運用管理費用（信託報酬）：上限 年率2.6824%（税込）

※上記は基本的な料率の状況を示したものであり、成功報酬制を採用するファンドについては、成功報酬額の加算によってご負担いただく費用が上記の上限を超過する場合があります。成功報酬額は基準価額の水準等により変動するため、あらかじめ上限の額等を示すことができません。

その他費用・手数料：上記以外に保有期間等に応じてご負担いただく費用があります。投資信託説明書（交付目論見書）等でご確認ください。その他費用・手数料については定期的に見直されるものや売買条件等により異なるため、あらかじめ当該費用（上限額等を含む）を表示することはできません。

※手数料等の合計額については、購入金額や保有期間等に応じて異なりますので、あらかじめ表示することはできません。

※上記に記載しているリスクや費用項目につきましては、一般的な投資信託を想定しております。費用の料率につきましては、アセットマネジメントOne株式会社が運用するすべての投資信託のうち、徴収するそれぞれの費用における最高の料率を記載しております。

※投資信託は、個別の投資信託ごとに投資対象資産の種類や投資制限、取引市場、投資対象国が異なることから、リスクの内容や性質、費用が異なります。投資信託をお申し込みの際は、販売会社から投資信託説明書（交付目論見書）をあらかじめ、または同時にお渡ししますので、必ずお受け取りになり、内容をよくお読みいただきご確認のうえ、お客さまご自身が投資に関してご判断ください。

※税法が改正された場合等には、税込手数料等が変更となることがあります。

【ご注意事項】

● 当資料は、アセットマネジメントOne株式会社が作成したものです。

● 当資料は、情報提供を目的とするものであり、投資家に対する投資勧誘を目的とするものではありません。

● 当資料は、アセットマネジメントOne株式会社が信頼できると判断したデータにより作成しておりますが、その内容の完全性、正確性について、同社が保証するものではありません。また掲載データは過去の実績であり、将来の運用成果を保証するものではありません。

● 当資料における内容は作成時点のものであり、今後予告なく変更される場合があります。

● 投資信託は、

1. 預金等や保険契約ではありません。また、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。加えて、証券会社を通して購入していない場合には投資者保護基金の対象ではありません。

2. 購入金額について元本保証および利回り保証のいずれもありません。

3. 投資した資産の価値が減少して購入金額を下回る場合がありますが、これによる損失は購入者が負担することとなります。